

2002年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、ユーラシア大陸で5月から波列状の偏差分布が見られ、ヨーロッパ西部、西シベリアで負偏差、ロシア西部、モンゴル付近で正偏差となった。太平洋中部から北アメリカ、大西洋にかけての30~40°N 帯は正偏差となった。太平洋の亜熱帯高気圧の西への張り出しは平年より弱く、東シナ海では負偏差となったものの、日本付近への北への張り出しは強かった。

対流活動は、インドネシア付近とインド西部で平年に比べるとかなり不活発となった。一方、太平洋西部の10~20°N 帯では平年より活発となった。アジアモンスーン域の対流活動は全体としては平年並であったが平年より東に偏り、大幅に北に偏っていた。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図では、太平洋西部の大規模発散域の中心は、対流活動がインド西部を中心に不活発、太平洋西部で活発だったことと対応し、平年より10度程東側に位置した。

SOI (南方振動指数) はダーウィンの海面気圧偏差の大幅な上昇で-0.7となり、5か月連続で負の値を記録した。

世界の天候

① シベリア南部からモンゴルの高温

② 中国中部の高温・少雨

中旬に中国スーチョワン (四川) 省などで熱波による死者や多数の入院患者が伝えられた。

③ 日本から華南の多雨

④ ミクロネシア西部からインドネシアの高温

⑤ インドの高温・少雨

インド中部から西部で干ばつの被害が報じられた。

⑥ ヨーロッパ東部からサウジアラビアの高温

⑦ トルコの多雨

トルコでは下旬の大雨により約40人が死亡したと報じられた。

⑧ ヨーロッパの多雨

⑨ アフリカ西部の高温

⑩ カナダ北部の多雨

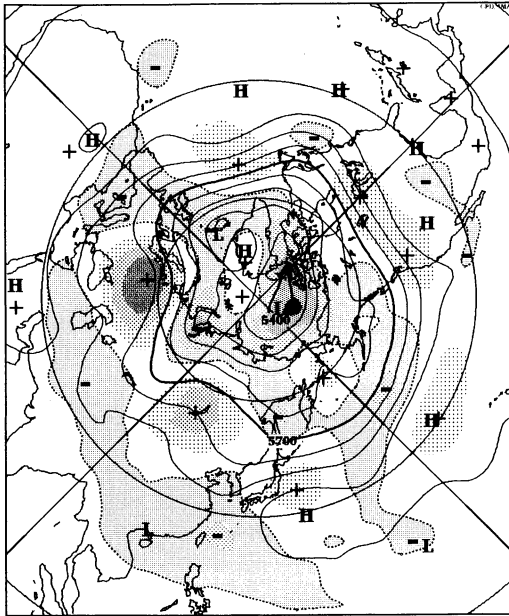
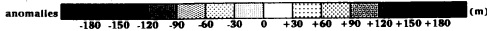
⑪ 米国の高温・少雨

北米では西部を中心に森林火災が多発し、平年の2倍の約160万ヘクタールを焼失したと伝えられた。

⑫ 中米諸国から南米北部の高温

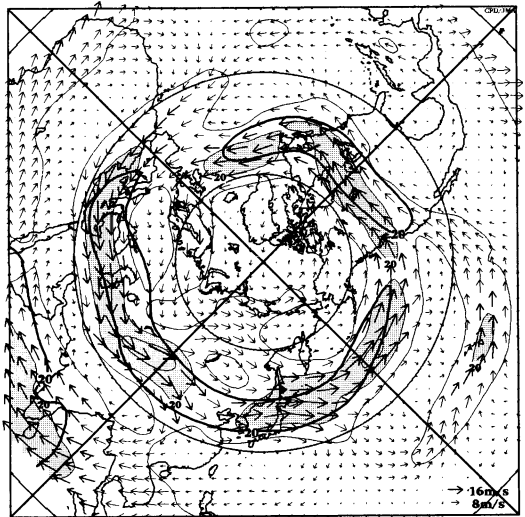
⑬ オーストラリア東部の少雨

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 中村理恵)



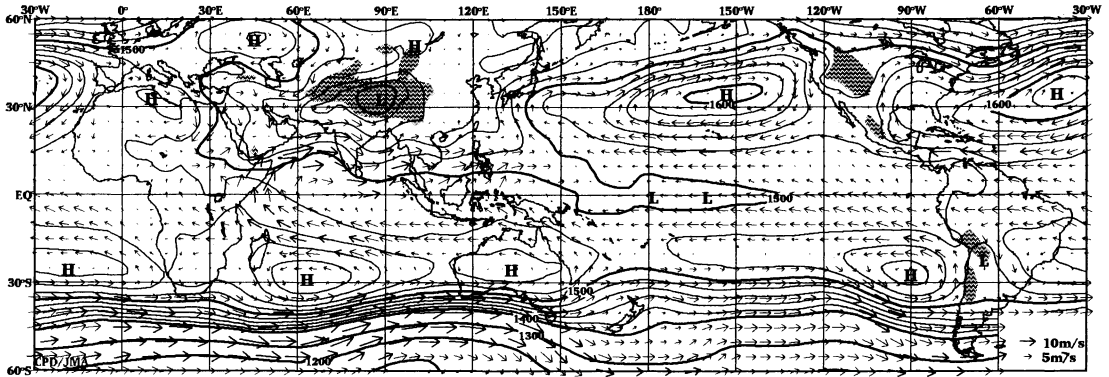
2002年7月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

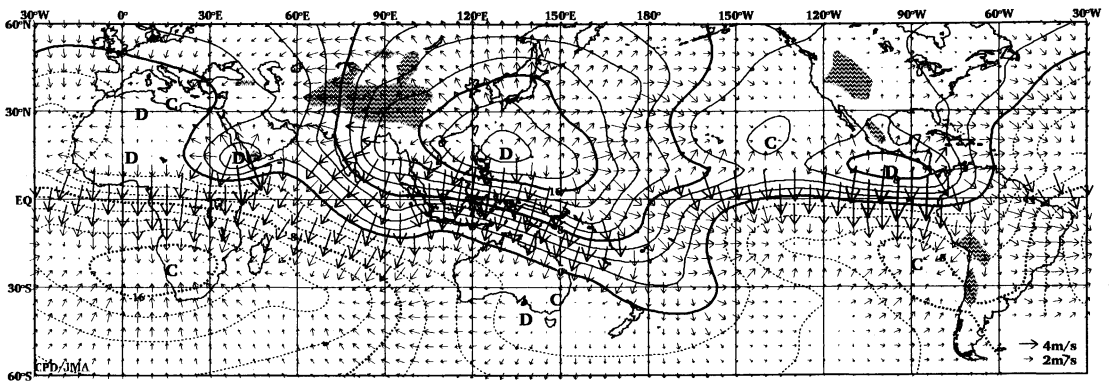


2002年7月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

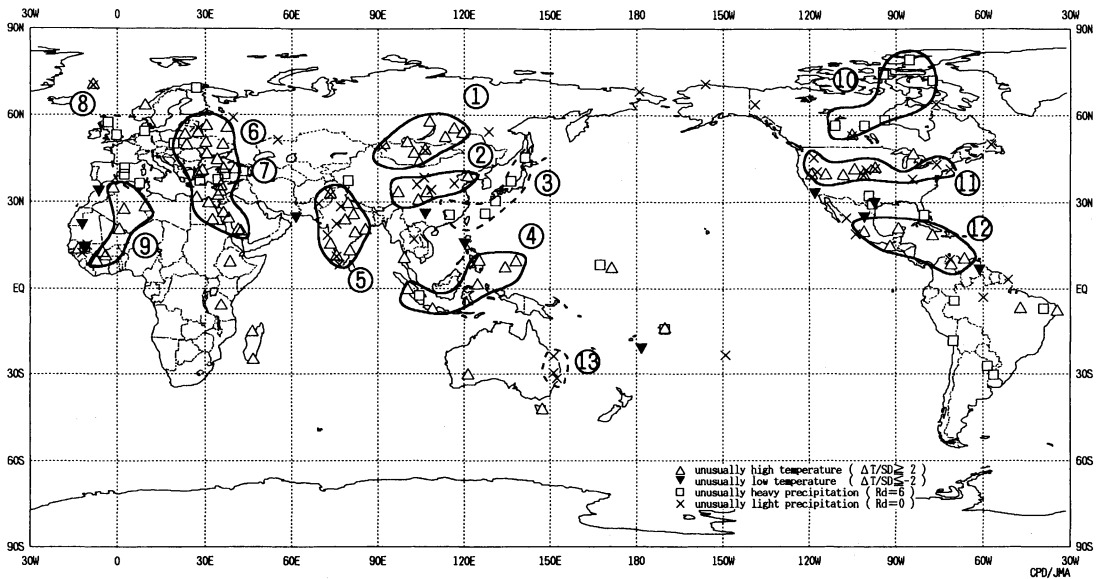
等値線間隔は10 m/s. 陰影部は20 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2002年7月の月平均850 hPa高度及び風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2002年7月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2002年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.